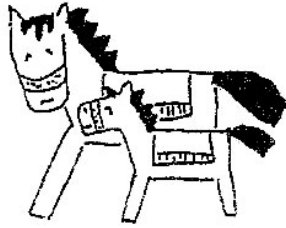


お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと



令和3年 5月 No. 318

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松第二保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<https://oumanooyako.com>

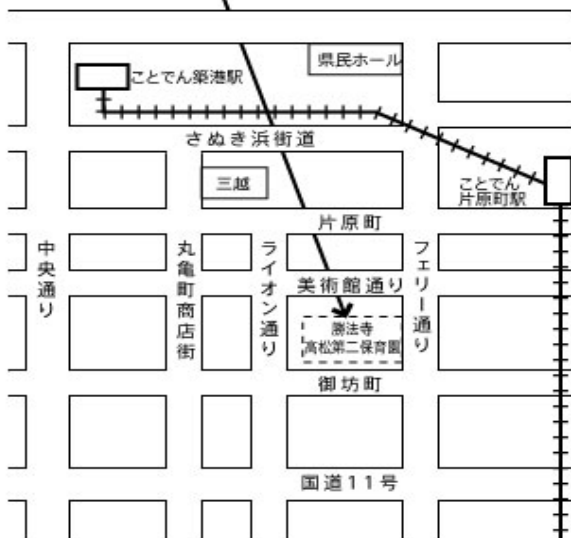


(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		5月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
5月	6日 20日	木	こうさぎおはなし会 15:30～16:30	わかりやすい絵本やてあそびなど みんなで楽しみましょう。	
5月	8日 22日	木	体験保育 10:00～12:00	屋内の遊具や園庭でもあそべます。 みんなと一緒にあそびましょう。	
5月	12日	木	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	蓮井孝夫氏に「子育て 孫育てコミュニケーション」を テーマに話していただき、フリートークします。	
5月	14日 28日	金	うたうたい「カラヴィンカ」 19:00～20:30	身の回りのものを楽器にして歌と演奏を 楽しんでいます。どなたでもどうぞ。	
5月	15日	土	子育てが楽しくなる小物づくり 14:00～16:00	紳士用靴下一足で動物をつくって子育てを 楽しめます。各自靴下一足をお持ちください。	

・火～土の9:00～18:00までは、園内開放して いますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)	育児相談(月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活 入園・見学についての相談もどうぞ。
--	---

香川県高松市御坊町2-2
地域子育て支援センター



「ことりは
こえだの
てっぺんに」
おやこで
よもう！
金子みすゞ

うああ
れのの
しきは、
かろ。

めちここと
のいかどえ
ちげもだり
なやのはは
かなのはは
に。ぶらっ
はらんこに、
はっぺんに、

き



☆今月の内容 — ・すべてはご縁のものだから〈よろしくね〉
・田舎和尚、コロナ禍に物申す！
・QRコードをつけました。



すべてはご縁のものだから 〈よろしくね〉

生命尊重センター副代表 田口 朝子

新型コロナウイルスによる自粛要請や臨時休校という馴れない環境で、不安を感じられた方も多いことでしょう。

この「不安」、令和時代の幕開けにぽっかりとあらわれ、私たちは右往左往しています。不安の対処法として、「家庭を、不安を受け止めてくれる居場所にする」ことが挙げられています。

家族の心をつなぐために、宗教雑誌に掲載されていたコラムを紹介させていただきます。「作家の上野淳一郎氏に〈よろしくね〉のエッセイがあります。シチズン時計勤務の大館のりえさんの体験を書いたものですが、これがおもしろい。

大館さんが小学生の頃、ヨーロッパ旅行に行った母親からお土産を貰った。それはキーホルダーで、受け取ろうとすると母がこう言った。『ちゃんと座ってご挨拶しなさい』『なんて言えばいいの』『のりえです。大切にしますからよろしく』嫌だと思ったが、母はこう説明した。『これはね、フランスのモンブランのおみやげ屋さんで買ったんだけど、ひょっとしたらアメリカ人かイギリス人に買われてたかもしれないでしょう。それが日本に来て、のりえの物になるって不思議な縁じゃない？そう考えれば〈よろしく〉ってご挨拶したほうがいいと思ったの』

以来、母は新しい洋服や勉強机や電気スタンドを買ってくるたび『ちゃんと座ってご挨拶しなさい』と言うようになった。大人になった大館さんは、ハンドバックや靴を買ったときは必ず挨拶をする。イヤリングを買った時は、念を入れて、『どっかにいかないでね』とつけ加える。職場のパソコンが動かなくなったら口の中で小さく『ご機嫌直して、よろしくね』と挨拶するというのです。

コラムは、「幼い頃より、物に対し〈いのちの目、縁の目で見ること〉を躰けられていれば子どもは心豊かに育つでしょう」と締めくくられていました。人生を送る上で、家庭で躰けられた良い習慣は格言にまさるといえるでしょう。



ところで、お釈迦様がおっしゃった「ご縁」、深いですね。「ご縁のものだから」と言うと、人間の賢し^{さか}らな考えを超えて、人生の深い真実と神秘につきあたる。大館さんのお母さんが「ご縁のものだから」と言った瞬間、これまで見えなかったキーホルダーの奥にある無数の縁の存在が見え、のりえさんの物の観方が変わったのです。

宗教評論家のひろさちや氏は、「わたしたちの心の中には仏の心もあれば、愚かなる心、貪^{むさぼ}る心、怒りの地獄の心もある。それが縁によってひよいと出てくる」という。隣にいる人が凶々しければ、こちらもつい意地悪になる。優しい人であれば、優しくなれる。縁は相互的なもので、要は、いい縁をつくらないといけないというのです。

ご縁という言葉もそうですが、「ありがとう」という感謝の言葉、「おはよう」という挨拶の言葉、「おめでとう」、それらはいいいご縁をつくる素敵な言葉です。

コロナが長引くいま、大館さんに倣^{なら}って、明るい言葉、前向きの言葉によるいいご縁づくりを始めてみませんか。家具はもちろん、庭の草木やペット、自然の光や空気や水、何よりも家族の一人ひとりに「よろしく」と言ってみてください。何だか「コロナを乗り越える力」が湧いてくるでしょう。苦手な相手には、そっと心の中でつぶやくことも大事です。

日本の家庭は、何か特別の縁でつながっているという夫婦、親子関係で成り立っています。この「ご縁」、どこがどうつながって、こうなっているとは、お釈迦様にもわからない。神秘を介して、すべては「ご縁」と言ってみれば、人生の受け止め方が変わるのではないのでしょうか。そして思うに、人知を超えた配剤で「人としてこの世に生を受けた」と認識していたわけですから、子どもを「つくる」という言葉はなく、すべて「授かりもの」として捉えていたはずです。

先人たちは、この人間を超える目に見えない「ご縁」を非常に重視してきました。お正月やお盆の習慣。特に家庭では、人間の誕生から死に至るまでの間に節目を設け、家族の幸せのために心を砕きました。数え年を発想して新しい生命を迎えるための心を養い、子が生まれれば、成長を願う諸儀式を行い、受験・就職祈願、結婚式等々、意図的に先祖から親、親から子と続く縦の生命観を入れた行事を行って、民族の生命と文化の連続性を保ってきたのです。



『コロナ時代の僕ら』を著^{あらわ}したイタリアの作家ジョルダノーさんは、コロナウィルスが現在の高度な物質文明に反省を突き付けていると指摘し、コロナを乗り越えた先の「ビヨンドコロナ」の時代のために、「僕らはどうしてこんな状況に陥ってしまったのか、この後どんな風にやり直したいか、一緒に考えよう」と呼びかけています。

溢れる情報と物に気をとられていた私たちは、人と人はほどけぬ糸で結ばれていることに気づき、社会と家庭を見つめ直すことを迫られているのです。是非この機会に、子どもが大きくなって役立つものは何かを話し合ってみてください。

大切なことは、子どもをどう育てるかではなく、「どういった家庭をつくる」かです。



田舎和尚、コロナ禍に物申す！

金剛寺住職 山本 栄照

☆昭和37年生まれの拙僧は、戦後17年の人間。確かに、我慢出来ない老人、自分勝手な老人、おるにはおる。が、拙僧周囲の知人老人、檀家老人など、戦中、戦後の物のない時代を生き抜いてきた80歳以上の方々は、このような非常事態でも落ち着いたもの。「事が動くまで待つしかない。待つしかないじゃろうが」と。

☆わが寺専属造園業の方に大きく育った木の植え替えを頼んだら「何年も植木鉢で育てられた木を野に植え替えても根が付かん事が多い。自然の木は水を求めて自らが根を伸ばし生きようとするが、植木鉢の木は、それをする必要がない。なぜなら、簡単に水が手に入るから。過保護による子育てと同じ。早く野に出すべきだったね」。

「生命尊重ニュース」2021年4月

お知らせ!!

今月からQRコードを付けました。スマホからも「おうまのおやこ」を読むことができますのでご利用ください。また、和貴こども園や高松第二保育園のことも詳しくわかるよう準備しておりますので しばらくお待ちください。